



# 徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念  
「思いやり・信頼・安心」

R04/01

29号

〒770-0812 徳島市北常三島町 2 丁目 34 番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

## 新年のご挨拶 — コロナ禍の収束を願い迎えた2022年に —



病院事業管理者  
安井 夏生

新年明けましておめでとうございます。今年のお正月は天候に恵まれましたので、初詣に行かれた方も多かったのではないのでしょうか。私は元旦に近所の山寺に行き、1年の誓いをたててきました。その内容はあまり人に言うべきことではないかも知れませんが、まず徳島市民病院の

発展を心に誓うとともに、新型コロナウイルス感染症の収束をお祈りしてまいりました。「新たなコロナ患者が市民病院に入院した」と報告を受けたのはその日の夕刻です。

いったん収束しそうに見えた新型コロナウイルス感染症ですが、オミクロン株の登場でまた大混乱が生じています。今後さらに未知のウイルスが登場する可能性も十分あり、まさにそれが「21世紀は感染症の世紀」と言われる所以です。ひとつの感染症はいずれ収束するものと思いますが、新たな感染症がいつ登場しても不思議ではありません。我々は感染症に対するしっかりとした知識を持ち、情報収集を怠ってはならないと思います。

徳島市民病院では「思いやり・信頼・安心」を理念とし、地域の基幹病院として最先端の医療を提供できるよう常に努力しております。とは言っても急性期の医療は基幹病院だけで成り立つわけではなく、地域の医療施設との連携・協力が何より大切です。徳島市民病院は今まで以上に地域の医療機関との情報交換を大切にしておりますので、本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



市民病院長  
三宅 秀則

新年明けましておめでとうございます。今年の元旦、徳島は晴天で気持ちのよい新年を迎えられたことと思います。新型コロナウイルス感染が本邦で報告されてもう2年が経ちます。本年の新年のご挨拶では「コロナウイルスも収束し…」と書けると、1年前は疑っていませんでした。

当院の2022年は、元旦のコロナ感染患者さん受け入れから始まりました。しかし、いつまでもコロナに振り回されるのではなく、もちろん十分な対策を講じた上で、with-CORONA、さらにはpost-CORONAにどう対応していくかを考えねばならない1年の始まりと思います。

4月には診療報酬改定、2024年には「働き方改革関連法案」の医師への適応、2025年には「地域医療構想」の実現と、非常に重要な課題・難題が医療機関には待ち受けております。一方で、患者さんにとってはそのような病院を取り巻く環境は関係なく、また、ご自身の健康を損なうという点では、コロナとその他の疾病の区別もありません。病院としては、今まで以上に患者さんが満足していただける最新の医療を、継続して、しっかり提供していくよう最大限の努力をする責務があります。

当院が「ここに在って欲しい、在ってよかった」と、患者さん、住民の皆様から心底思ってもらえるように、この1年も、職員一同力を合わせて頑張っておりますので、本年も徳島市民病院を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 令和3年度 救急医療功労者表彰 受賞

当院はこの度、令和3年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受けました。この表彰は、長年にわたり地域の救急医療の確保、救急医療対策の推進等に貢献した個人や医療機関等の団体の功績を称えるものです。

今年度は全国で13団体と個人24名が選出されており、医療機関は10病院のみが表彰を受けました。日頃の当院の救急室の功績以外のなにもでもありません。

当院は二次救急指定病院ですが、年間約2,500台の救急搬送と、8,000人超の救急患者さんを受け入れており、宮本救急室室長と大久保師長を中心にチームワークよく徳島の救急医療の一翼を担っていると自負しております。新型

コロナウイルス  
感染拡大の影響



救急室にて 宮本室長と大久保師長、スタッフの皆さん

下でも、重点医療機関・協力医療機関として、簡易待合室や簡易診察室の設置、検査体制の拡充を行いながら、一般救急患者さん以外にも感染患者さんの受け入れや、発熱患者さんの対応も積極的に行ってきました。

今回の表彰を励みに、市民病院は令和4年においても今まで以上に救急医療体制を整え、住民の皆様安心して暮らしていただけるよう、頑張っていきたいと思います。

(院長 三宅 秀則)

## 見学実習のため藤原氏来院

12月14日、徳島県看護協会 複合型サービス事業所あいの所長である藤原 都志子さんが、当院へ見学実習のため来院されました。

地域連携と入退院、在宅療養支援に関する担当者からの聞き取りや意見交換、多職種カンファレンスへの参加等、日程を終えられた藤原所長にお話を伺いました。



藤原 都志子 所長

—— 実習終了後の率直なお気持ちは？

「今回、認定看護管理者教育 セカンドレベルの地域連携を理解する目的で実習をさせていただきました。看護小規模多機能型居宅介護の現場で勤務している私にとって、今回の実習で病院の入退院支援について学んだことは、今後の連携にとっても役立つものとなりました。

看護小規模多機能型居宅介護は、「通い」「泊まり」「訪問看護」「訪問介護」の4つのサービスを一体的に

提供する介護保険サービスです。今後も連携により、医療依存度の高い中重度者の方の退院後の受け皿になれればと思います。」

—— 特に参考になったと思われる点は？

「ベッドコントロールコーディネーターの配置により、病院全体の退院の調整が可視化され、病院経営の面を考慮し効率よく入退院が管理されていることが印象深かったです。経営管理面もご説明いただき、大変参考になりました。」

—— 最後に、今回の研修について

「実習計画に基づいたスケジュールを組んでいただき、貴重な時間を実習に割いてくださり感謝申し上げます。」

(広報管理室)



## 知事より感謝状 ワクチン集団接種への協力

11月3日、アスティとくしま大規模コロナワクチン集団接種に協力した医療従事者への感謝状贈呈式が開催され、飯泉県知事から感謝状が贈呈されました。

政府からの要請もあり、徳島県ではアスティとくしまをコロナワクチン大規模接種会場とし、6月5日から11月2日まで集団接種が行われました。最終的に高齢者、教職員、保育士、寮生活をする高校生、受験生、妊婦など約

3万4千人にワクチンが接種されました。この取り組みは医師、薬剤師、看護師などの医療従事者と行政が、コロナという敵に対し一丸となって取り組んだ一大プロジェクトとなり、徳島県における今後の医療の取り組みにも生かせる貴重な経験になりました。

当院からは病院長から研修医に至るまで42名の医師が参加し、コロナワクチンの大規模集団接種の促進に大いに貢献しました。また、集団接種の問診に参加することで、ワクチンの最新の副作用状況などを確認することができました。

緊急事態下での取り組みであり、突然の医師派遣依頼への対応など調整に苦慮した面もありましたが、皆様のご協力の下で滞りなく県の要請に協力できました。大変お忙しい中、ご協力いただきました先生方に、改めてお礼申し上げます。  
(泌尿器科 福森知治)



会場にて 三宅 秀則 院長と福森 知治 医局長

## 徳島県民がんフォーラム開催

10月11日、徳島県民がんフォーラム「がんとうまく付き合う患者術・生活術」が、昨年に引き続き無観客にて開催されました。計5人が講師となり、私は「徳島県のがん相談支援センター」について講演させていただきました。

講演内容としては、以下のとおりです。

- ① 全国のがん診療連携拠点病院にがん相談支援センターが設置されており、がんに関する総合的な窓口となっている。徳島県内では5つのがん診療連携拠点病院の中にがん相談支援センターがあり、徳島県がん対策センターにもがん患者総合相談窓口があること
- ② がん相談支援センターは、その病院に通院していなくても、どなたでも無料で利用できること
- ③ 相談内容についての統計、就労支援、生活や社会保障制度、在宅療養支援、AYA世代の助成制度等と実際の相談内容についての報告

後半には、県民から寄せられた質問に対してのパネルディスカッションも行われました。30歳代から80歳代と、様々な年代から多くの質問が寄せられており、当フォーラムへの関心の高さに驚愕いたしました。

この様子は、徳島県内でケーブルテレビにて放送されており、毎年講演の後には当院へ通院されていない方からの相談が増加傾向にあります。患者支援センターでは、看護師、医療ソーシャルワーカー、公認心理師等が在籍しており、相談内容に応じてそれぞれの職員が対応しています。

どんなことでも気軽に相談していただくことができるよう、私たちは垣根の低い患者支援センターを目指しています。  
(患者支援センター 岡田 リカ)



岡田 リカ 副看護師長



フォーラムの様子

## 看護の出前授業 行われる

12月7日、“看護の出前授業”を谷崎教育担当師長、長尾主任看護師と共に行いました。城西高校にて、2年生約80名への講義です。

長尾看護師は“看護職の仕事”というタイトルで、今も心に残る患者さんとのエピソードから命の大切さ、病とともにある生き方を教わったことや、看護師の仕事における命の重みについて語りました。私は“看護職への道”を薫陶し、高校生に少しでも興味を持って聞いてもらえるよう、スライド内に「コードブルー」の山P、



「恋は続くよどこまでも」の佐藤 健を登場させ、我ながら楽しいスライドに仕上げてみました。

後半の実技体験では、看護師を希望している9名へ「この服着てみたい人」と谷崎師長が声をかければ、「着たいです！」と各自好きな色のスクラブを手に取り、試着する一幕もありました。手洗いチェッカー、血圧測定、鑷子を使っての清潔操作、聴診器で自分や友達の心音を聞きながら「こんな音がするんじゃ〜」、「もっと大きく聞こえるのかと思った」など、楽しそうに練習していました。

人懐っこく可愛い高校生ばかりで、こんな子たちが看護師になってくれれば看護の世界も明るいな、出来れば当院に就職してもらい、一緒に働ける日が来たらいいなと殊に想いました。  
(患者支援センター 山本 美由紀)

## NICUに新エコー

当院は、1980年代より高度な新生児医療を行うNICU(新生児集中治療室)を保有しており、徳島県の地域周産期母子医療センターとして認定されています。長年、県下の新生児医療に寄与してきました。



昨年末には新型の超音波(エコー)診断装置が稼働し、心疾患、脳室内出血、腎疾患などの有無や各臓器の血流評価等において、より鮮明な画像が得られるようになりました。また、システム連携により電子カルテ内に記録が保存できるようになっています。

赤ちゃんの後遺症なき生存を願い、ご家族に寄り添いつつ日々治療にあたるNICUスタッフにとって、心強い味方となることが期待されます。

## 研修医日記

初期臨床研修医 吉川 紘平

初期臨床研修医1年目の吉川 紘平と申します。今年3月に医師国家試験に合格し、徳島大学を卒業しました。4月からは徳島大学病院で初期臨床研修を行っており、プログラムの一環として10月から市民病院で研修させていただいております。

徳島大学病院の研修プログラムは、最大12ヶ月間の協力病院での研修が可能です。毎年多くの研修医が大学病院とは違う環境での経験を積むために、市民病院や県立中央病院をはじめとする様々な病院で研修を行ってきま



した。こちらでの研修は大学病院と違う部分もあり、戸惑ったりもしましたが、先生方やスタッフの方々によくしていただき少しずつ慣れてきたように感じます。

協力病院での研修に徳島市民病院を選んだのは、自分が将来進む科として整形外科を志望しており、市民病院の整形外科は研修医に熱心に指導して下さるとい評判を先輩方から聞いて

のことでした。いざ研修が始まってみると、整形外科だけでなくどの診療科の先生方もよく指導して下さり、多くのことを積極的に経験させていただきました。また、コメディカルをはじめスタッフの方々の雰囲気もよく、研修や業務の中で大変お世話になっています。研修はまだ半ばですが、協力病院での研修に市民病院を選んだことはいい選択だったと感じています。

この原稿を書いている今、市民病院での研修も中盤にさしかかったところです。残りの期間も有意義な研修にするとともに、市民病院に来院される患者さんの治療に少しでも貢献できるよう努力する所存です。どうぞよろしくお願いたします。